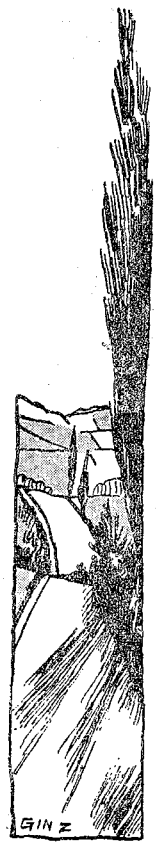
論說

貨幣の資源としての道路

田川大吉郎



一

今日の世界の問題は、要するに貨幣の問題である。昔は、すべての道路はローマに通ずると申したが、私は、今日の問題は、一切合切、貨幣問題に歸するものと思ふて居る。しかし、それを本論に取扱ふのではない。それは、他日の他の機會に讓りたいと思ふて居る。

けれども (一)道路は貨幣發行の資源として適當の資源であらう。といふことは此の簡短なる論述の場合にも提起することが出來る (二)道路を資源として、適度に貨幣を發行すれば、貨幣は混々として流る。水の如く、時の必要に應じて、潤澤に供給し得られる。それを發行して、道路を、充分に、理想

的に、改築し、擴張し、完成したいと思ふのである　(三)さうすることに、どんな無理があり、又、惡影響があらうかといふことを略論するのが本篇の目的である。

廣く諸賢の、御教示を仰ぎたい。

二

現在の道路築設費の出所若くはその調達の方法に就ては、說明を要しないことであるが

(一)　それは一般に租稅か若くは公債による習ひになつて居る。　公債には、言ふまでもなく、利子が着く、元利を償却しなければならないから、周密繁瑣な償還の計畫が要る。

(二)　その償還の計畫は容易でないから、公債を以て支辨する道路の改築は、時々、行はるゝけれど、結局それは租稅支辨事業となり、租稅の負擔力の餘裕のない限り、道路の改築は行はれないといふ實狀になつて居る。

(三)　電車にも、鐵道にも、前段の事情は均しく適用し得らるゝ、それで電車も盛んに布設し、鐵道も盛んに建設した後の、公債の償却が工合よく行はれないため、その事業が枯死し、後の計畫者を逡巡せしめ、必要な改良の計畫が行はれないことになつて居る。

概括的に、以上の如く見ることは、誤つてゐないと信ずるのである。　從つて問題は、それの資金といふことになり、貨幣といふことになり、事業の必要に伴ふ適當額の貨幣が得られないから、事業の必要

はある。人もある、材料もある、機關はあるけれど、それを正當に計畫することが出來ず、着手することが出來ず、進行することが出來ず、其の用を果して其の利を享くることが出來ず、茫然として拱手するといふ現狀に在るのである。

三

そこで、現に、出來て居る道路を擔保として、貨幣をどん〳〵發行しては何うか、それで必要とする新計畫の資金は、自由に、不足なく、出來るからさつさと進行することにしては何うかと申すのである。

斯くして毫も差支へないと思ふけれど、所によつては、既に出來て居る道路若くは設備を擔保とし得ない場合があらう。新道路の築設には何れだけの資金を必要とするか、その新道路は、必ずその資金以上の重用價値を有するものであらう。それを有するからそれを築設するのである故(一)將來のその實用價値を見越して、それに必要とする貨幣をあらかじめ發行して、事業をどし〳〵進行せしめたら可からう、私はそれでもいゝと信ずるのであるけれど(二)若し大事を取る論者があつて、それを危ぶむなら最初は公債でも、或は大藏證券でも、現時の適當と認められて居る方法を以て調達して、施設することゝし、完成の上は直々その實用價値を見積つて、貨幣を發行し、公債其の他の借入れ資金を償還することにしたら可からう、(三)それは要するに完成した道路と、電車、鐵道等に借金を殘さないことにするのである。借金を殘すからそれらの事業が苦しむのである。そこで其の財産がある

限り貨幣を發行して、借金を殘さないことにし、其の計畫と經營を自由にし、且それに利用した資金を固定せしめず、停滯せしめず、他の必要の事業にはずん〳〵投資し、實行する樣、資金難の束縛を免れしむることにしたいと申すのである。

斯樣に貨幣を發行するといふことは、かなり大膽な新規な主張である。或人に言はすれば、まるで貨幣經濟の理法を知らない無鐵砲の主張であるかも知れない。私もその樣な非難のあることは、相當心得て居る。それにも拘はらず、尙これを提言する譯は、私自身がそれでも差支へがないと確信するに至つたからのみでなく、歐米にも斯の種の結論に達した學者、研究家、政治家、財政家が既に、やゝ多くあつて、それ等の諸氏は團體を作り、團體としての自信を保ち、團體員各自の論理と熱注的努力を注いで、防ぐべからざる勢力を作興して居るのみならず、團體以外の人々の興味と同情をも喚起し、相合して近く實行せらるゝに至るかと思はるゝ程の氣運を釀成しつゝあるからである。有り體に言へば、私は多年斯の樣の考へを抱いてゐたが、重大の問題ゆえ、提議を躊躇してゐたのである。しかるに歐米の諸氏はまつしぐらに其の研究を進めて、公々然、その結論を發表し力說さるゝに至つた故、私もそれらに勵まされ、斯く提言するに至つたのである。弱いことを申す樣であるが、私は實に、海外の同志である先進者の研究と、結論と、行動とに勵まされたのである。

（注意）私は曾て尾崎行雄氏と名を列ねて、濠洲の人フランク、ロツク氏の「ナショナリゼーション、オフ、クレヂツト」を繙譯し「銀行國營論」と題して出版いたした。近年、英國には社會信用を基礎とし

て貨幣を發行する運動が起り、ドーグラス少將が其の監督と爲つて居る。ドーグラス氏のは社會信用で、ロツク氏のは國民信用で、名は少しく異なるけれど、どちらも同じ趣旨、同じ目的、同じ方針の主張で加奈太のアルベルタ州ではそれを、其の州限りの財政經濟に適用せんとし、それを政綱とする新政黨が起り、昨年八月の總選擧には、議員總數六十三名の中、五十六名を其の一黨の手に占有した。アルベルタ州の政權は、これに依り、たとへ一期ではあるが、全く社會信用黨の手に落ちたのである。

そして彼等は、此の運動、此の計畫により、所謂社會主義の弊を矯め、共產主義の弊を矯め、又フハツシヨ主義の弊にも陷ゐらず、それらの勢力動向の外に立つて、最も健全なる、最も幸福なる、政治上、金融上の施設を全ふし得べしと高調してゐるのである。

私は斯の樣の研究が、我が國にも、振起し、進出するに至らんことを希望に堪へない。

四

貨幣論に觸れない趣旨であるから、貨幣に就て、事新しくこゝに述べる必要は、勿論、無いのであるが、それでも便宜のため一言すると、今日の日本は、金の兌換を停止して居るけれど、日本銀行は、金の準備を基礎として、其の紙幣を發行して居るのである、そして、其の兌換を停止したのは金を外國に取り去らるゝことを怖れたのであるから、それだけ金を重んじて居るのである。若し金をそれ程大切と思

ふてゐないなら、それは有つてもいゝけれど、無くてもいゝ位ゐのものだと思ふてゐたのなら、外國に取り去られ往く、それを、左程に憂ひなかつたであらう。私は、此の理解に本づいて、あの時の日本が兌換を停止したことは、即ち金を重んじてゐたからだと謂へる。金を紙幣發行の第一資料と思ふてゐたからだと謂へる。金準備なしには紙幣の發行が出來ないと思ふてゐたからだと謂へると思ふ、それ故に、金準備が四億臺に落ちた時には、誰も彼も青い顔をした。今、それが三億臺以上になつたと聞けば、誰も彼も赤い顔して喜んで居る。

所で、私はそれに對し一問を發せざるを得ない。(一)金とはそんな大切な、有力なものであらうか。(二)紙幣は金を準備としてのみ發行せられ、それなしには發行せられないものであらうかと。

私は、以上の自問に自答して、(一)そんな不合理なことがあるものか。(二)紙幣は金なしにも發行が出來るものである。それを金なしには發行が出來ない樣に思つたのは、先人の誤解である。又、現代人の誤解である。研究不足である。迷信である。それ故にそれを破るべきである。(三)金以外のいろ〳〵の有用な資料がある、土地は其の一つである。家屋は其の一つである。機械は其の一つである鑛山は其の一つである。それらの有用の資料を準備として紙幣は發行し得らるゝものである。發行すべきであると。

本論は其の一部の一部に過ぎないが、前には土地が其の一つであると申した、土地にも種類がある。市街地があり、農耕の田畠があり、又、山林があり、鑛山もある。其の中にも道路が其の重要の性を形

成する一である。特に、國家の關係に於て、道路は、國家の財産の中で、貨幣發行の準備資料として、素質、實價を、是も多量に有して居る貴重の一資源であると信ずるのである。

早い話が、昨年の秋、英國の政府は、その總選擧に先だち十億圓の道路改良費を向ふ五ヶ年を期し支出する方針であると發表した。五ヶ年に十億圓、一ヶ年に平均して二億圓、それだけの資金が道路に投ぜらるゝのである。投ぜられた資金は道路と化して其の中に收めらるゝのである。即ち、英國の道路はそれだけ價値を高むるのである。それを擔保として貨幣を發行するに何の差支へがあるか、それは差支へはない。それだけの金が其の中に在るのだから、それだけの貨幣を發行して、より以上の富の利用と擴張とを圖るのである。私は、この十億圓の公債は、道路の完成を一期とし、直に貨幣を發行してこれを償還すべきである。さうしてその公債資金なり、若くは新發行の紙幣なりを、更に利用し活用する時に、改造された、その道路が改造された目的を直接に達するの一方英國の全社會が、その道路改造の結果による、富の增加の利益を、廣く享受することになるのである。英國の富は斯の如くにして初めて有効に擴充せらるゝのであると私は思ふたのである。

(注意) 英國は、斯くして新造の道路に年々二億圓をかくるのであるが、それは新造の分の費用であつて、其の外に從來の分の維持費が、年々約一億六千萬圓かゝる——昨十年度の豫算——それ故に若し以上の私の提議を誤りなしとすれば、英國は其の二たロの道路費合計三億六千萬圓に對して三億六千萬圓の紙幣を發行し得る譯である。或は何等かの理由でそれを縮減すると、三

億三千萬圓が、三億圓かの紙幣を發行し、公債を償還し得るのである。若くは他の擴張費用に充當し得る譯である。

五

以上の提議には、次の解說を加へて置くことが更に便宜であらうと考へる。

日本の貨幣は、以上の如く、金を準備として日本銀行から發行されて居ると私は申したけれど、實際の事實として私どもは、私どもの家、屋敷を抵當として貨幣を發行――借金――して居るのである。此の意味に於て、私の以上の提說は將來の計畫でなくして、何人も不用意に現に實行して既に一代の習慣となつて居る既存の事實であると思ふ。

私どもの家には、若しも探せば、金の材料は少額ながらいろ〳〵ある。刀の飾り、床の間の置き物、時の流行の金細工品、時計、時計のくさり等が、大凡それである。しかし私どもが普通に金融する時には、それらの材料を利用しないで、家、屋敷、機械の類を利用する小口の利用の場合、質屋通ひの場合には、時計やくさりの類を利用するけれど、大口の場合には必らず家、屋敷を利用する。それ故、普通の觀念として、又、年賦の事例として、私どもは、金を擔保として貨幣を發行するよりも家、屋敷、田畠等を利用して貨幣を發行する場合が多いのであると私は信じて居る。

前述の道路を資源としての貨幣發行論は、卽ち、既に實行されて居るところの家、屋敷を擔保とした

紙幣發行論である。何の新し味も、又、變つたこともない。當り前の慣行、當り前の道理である。信用の國有論、社會信用論といふは、その慣行を推し擴げて、有らゆる國家の資源を利用するといふのである。私どもが家に在るこざ〳〵の金細工品を集めて金融さし、紙幣を發行しつゝあるのは、丁度今日の日本銀行を寶庫としての金準備の紙幣發行の例に當るのであつて、有らゆる國家の資源を利用して金融を圖るべし、と申す信用利用論は、丁度私どもの家や宅地、農地、機械類を擔保として金融を圖りつゝある現在の實狀に卽して金融制度の改革擴張を謀れと申すことになるのである。

現在の慣行を些しも間違つてゐないと確信し安心して居る私は、以上の如く、それを當然のことゝして、更に擴大して信用の國有論にまで前進したいと申す譯である。

六

さうして何うするかといふことは、此の上、繰返す必要はないのだけれど、道路を擴張しないのである。それを改良しないのである。日本の到る處に、山にも、丘にも、津にも、浦々にも、而も日章旗の飜へる所には立派な道路を通ぜしめたいのである。交通に遺憾なからしめたいのである。車も、馬も、牛も、そして近代の機械車、機關車の類も、成し得る限り普及せしめたいのである。普及せしめ得る基礎を作りたいのである。道路が日本の力の基ゐであるからである。日本の富の根據であるからである。日本の將來の發展は主として道路の改良、交通機關の整備にかゝつて居るからである。

それには資金を必要とするのが、その資金が乏しい。それで出來得べきことも出來ないで居る。貨幣の本質を考へて見よ、國家の富と、又、その責任をも考へて見よ、貨幣は日本銀行によらずとも、日本國家の富の力で、どん〱發行し得るものではないか、そして、何の差支へもないではないかと言ひ張るのが私の存念である。

それを道路に結び着けて、道路のためと併せて國のためと、又、貨幣のためと各方面に亘つて考へ樣とした。それだけ、道路に關係の深い諸君の御考察を仰ぐに足るべしと思ふたのである。どうぞ御叱正を願ふ。

×――――×

×――――×